



とびっくす No.96

(本誌はホームページでもご覧いただけます。http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/)

令和2年度秋季ヤマトシジミ資源量調査結果 ～ 漁獲対象サイズの資源量は平年並みの状況です ～

水産技術センター内水面浅海部では、毎年6月(春季)と10月(秋季)に宍道湖に生息するヤマトシジミ(殻長2mm以上)の資源量を推定するための調査を行っています。今年度の秋季調査は10月26・27・29日に実施しましたので結果を報告します。

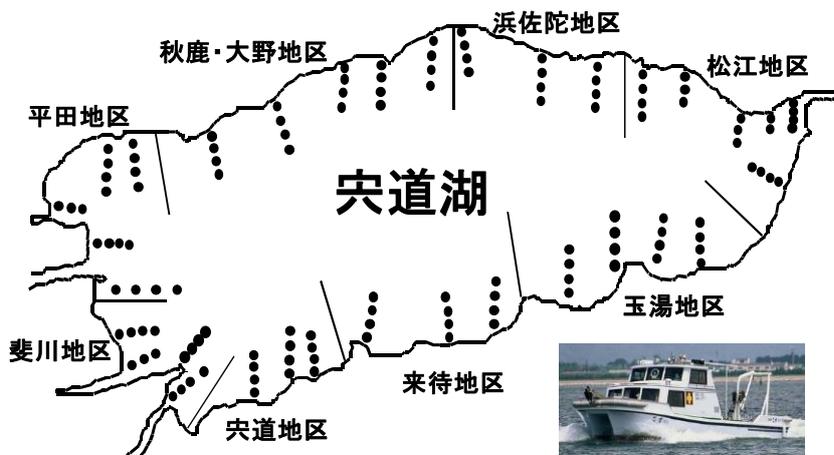


図1 調査地点

調査方法

図1に示す調査定点(126ヶ所)において調査船「ごず」を使用し、スミス・マッキンタイヤ採泥器で各定点2回(面積0.1㎡)、湖底の砂泥と一緒にヤマトシジミを採集しました。採集した砂泥サンプルは、フルイでサイズ別に選別し、生息密度と水深別の漁場面積から宍道湖全体の資源量を算出しました。

調査結果および考察

令和2年秋季のヤマトシジミの資源量(表1)は3万9千トン(914億個)が生息していると推定されました。これは調査が始まった平成9年以降の資源重量の平均値5万2千トンの約8割でした。

内訳をみると、漁獲対象である殻長17mm以上は1万7千8百トン、82億個でした。これは、平成14年に開始した殻長別の資源量調査における、秋季資源量の過去18年平均値(1万7千4百トン)とほぼ同じでした。

それ以下の大きさについては、殻長12～17mm未満が約1万4千トン、殻長12mm未満が約7千トンと、春季から秋季に急激な増加がみられた昨年秋季の約半分でした。

表1 ヤマトシジミの資源量

サイズ		重量 (トン)	個体数 (億個)
未成貝	殻長12mm未満	7,321	679
成貝	殻長12mm以上17mm未満	14,027	153
	殻長17mm以上(漁獲対象)	17,841	82
	成貝合計	31,868	235
全資源量		39,189	914

今後の見通し

今季の資源量については、資源重量で見ると平年の約 8 割でしたが、漁獲対象サイズで見ると同程度であったことから(図 2)、例年並みの漁模様で推移すると考えられます。

資源量は秋から翌年春にかけて減少傾向を示すことが多いので、今後は来年の春以降に漁獲対象となる、殻長 10～15mm の個体(図 3)を中心に動向をみていきたいと思えます。

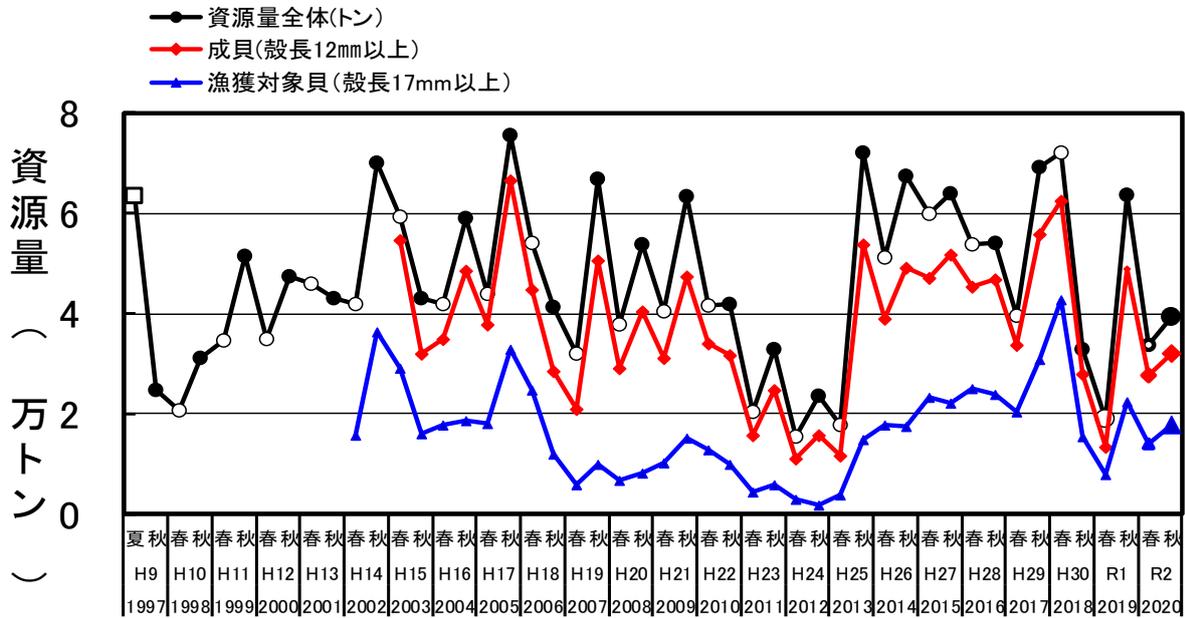


図 2 宍道湖のヤマトシジミ資源量の推移

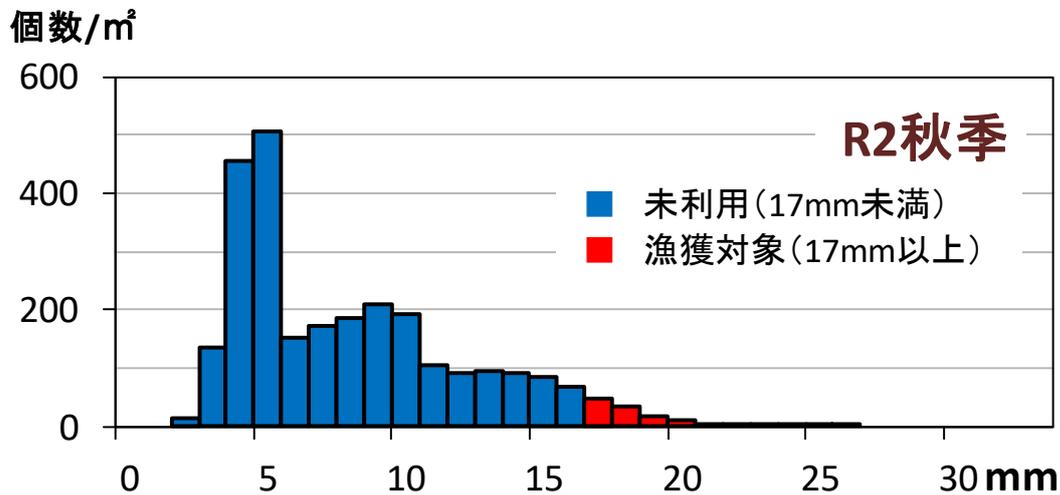


図 3 宍道湖全体のヤマトシジミの殻長組成
(R2 年秋季、全調査地点の平均値)

島根県水産技術センター
 島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1
 TEL:(0855)22-1720 FAX:(0855)23-2079
 ホームページ: <http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>
 E-mail: suigi@pref.shimane.lg.jp